

## 平成7年度作況一覧

秋播小麦 やや不良	春播小麦 不良	大豆 平年並	小豆 良	菜豆 不良	ばれいしょ 平年並	てんさい 不良
--------------	------------	-----------	---------	----------	--------------	------------

### I. 気象概況

平成6年9月から平成7年10月までの概況は次のとおりである。

平成6年9月：

平均気温は月をとおして平年より高かった。降水量は上旬が少なかつたほかは多かつた。日照時間は中・下旬が少なかつた。

10月：

平均気温は上旬が高かつたほかは平年並であつた。降水量は少なく、日照時間は平年並であつた。

11月：

平均気温は上・下旬がやや高かつたが、中旬は低かつた。降水量は中旬が多く、下旬が少なかつた。日照時間は平年並であつた。

12月：

平均気温は上旬がやや高く、中・下旬は低かつた。降水量、日照時間は平年並であつた。根雪始は12月9日で平年より2日遅かつた。

平成7年1月：

平均気温は上・下旬が高く、中旬は低かつた。降水量、日照時間はほぼ平年並であつた。

2月：

平均気温は上旬が低く、中旬が高かつた。降水量は少なく、日照時間は平年並であつた。

3月：

平均気温は上旬が低く、中旬が高かつた。降水量は下旬が多かつた。日照時間は上旬がやや多かつたほかは平年並であつた。根雪終は3月24日で11日早かつた。

4月：

平均気温は中旬が低く、下旬が高かつた。降水量は下旬がやや少なく、日照時間は上・中旬がやや少なかつた。

5月：

平均気温は上・中旬が高かつた。降水量は下旬がやや多く、日照時間は中・下旬が少なかつた。

6月：

平均気温は上・下旬がやや低かつた。降水量は上旬が少なく、日照時間は下旬が少なかつた。

7月：

平均気温は中・下旬が高かつた。降水量は上旬が多く、中旬は少なかつた。日照時間は上・下旬が少なかつた。

8月：

平均気温は上・中旬が低かつた。降水量は上・中旬が多く、日照時間は少なかつた。

9月：

平均気温は上・中旬が低く、下旬が高かつた。降水量は上・中旬が少なく、日照時間は平年並であつた。

10月：

平均気温は上旬が低く、中・下旬が高かつた。降水量は上・下旬が少なく、日照時間は上・中旬がやや少なかつた。

以上、農耕期間(4月～10月)の気象を要約すると、気温は、積算平均気温が3,104℃で平年より28℃高かつた。降水量は566mmで平年より57mm(平年対比92%)少なかつた。日照時間は836時間で平年より460時間(平年対比65%)少なかつた。

### 季節表

年次	根雪始 (6年.月.日)	根雪終 (月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月.日)	耕鋤始 (月.日)	晩霜 (月.日)	初霜 (月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (月.日)
本年	12. 9	3.24	106	4.2	4.25	4.21	10.28	189	11. 8
平年	12. 7	4. 4	119	4.2	4.22	5. 5	10.21	168	11. 2
比較	2	△11	△13	0	3	△14	7	21	6

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

### 農耕期間の積算値

項目 期間	平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
4～ 10月	本年 3,104	4,134	2,066	566	836
	平年 3,076	4,137	2,009	614	1,296
	比較 28	△3	57	△48	△460
5～ 9月	本年 2,575	3,310	1,835	449	582
	平年 2,596	3,342	1,846	453	934
	比較 △21	△32	△11	△4	△352

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

## II. 平成7年度の作況

### 1. 秋播小麦 平成7年度の作況:やや不良

事由:播種は平年より3日早い9月8日に行った。播種後、気温が平年より高く経過したため越冬前の生育は平年を上回った。試験圃場の根雪始は平年より2日遅く融雪期は平年より12日早かったため、積雪期間は平年より15日短かった。雪腐病の発生は褐色小粒菌核病が主体で、「ホロシリコムギ」「タクネコムギ」は平年並みであったが「チホクコムギ」は平年より多かった。融雪後の生育は概ね順調で、草丈は平年を上回り茎数は雪腐病の発生が多かった「チホクコムギ」は平年を下回ったが、「ホロシリコムギ」と「タクネコムギ」は平年を上回って推移した。出穂期は平年より1～2日早く、開花も良好であった。6月下旬から7月上旬前半まで気温は平年並から平年より低く降水量も多く、「タクネコムギ」「ホロシリコムギ」は強度に倒伏した。その後、7月上旬後半から天候は回復し成熟期は平年より1～2日早かった。成熟期の稈長は平年より高く、穂長は平年並で穂数は平年並から平年を上回ったが、「タクネコムギ」「ホロシリコムギ」では倒伏の発生が多く「チホクコムギ」でも「微」～「少」程度の倒伏がみられ、千粒重はいずれの品種も平年を下回った。そのため、子実収量は「タクネコムギ」では穂数が平年より多かったため平年対比109%と多収を示したが、「ホロシリコムギ」では平年対比97%、「チホクコムギ」では86%と平年を下回った。検査等級はいずれの品種も良好であった。以上により、平成7年度の作況はやや不良である。

品種名 項目/年次		ホロシリコムギ			タクネコムギ			チホクコムギ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期(平6.月.日)		9.8	9.11	△3	9.8	9.11	△3	9.8	9.11	△3
出芽期(平6.月.日)		9.15	9.19	△4	9.14	9.19	△5	9.14	9.19	△5
出穂期(月.日)		6.8	6.1	△2	5.31	6.1	△1	6.8	6.1	△2
成熟期(月.日)		7.23	7.24	△1	7.16	7.17	△1	7.22	7.24	△2
草丈 (cm)	平6.10月20日	31	21	10	33	21	12	34	22	12
	5月20日	57.5	46.8	10.7	59.5	46.2	13.3	53.7	43.8	9.9
	6月20日	113.7	99.2	14.5	114.3	101	13.3	104.3	89.2	15.1
茎数 (本/㎡)	平6.10月20日	1215	966	249	1319	1138	181	1201	1084	117
	5月20日	976	1097	△121	1185	1179	6	929	1109	△180
	6月20日	630	585	45	874	742	132	622	647	△25
成熟期に おける	稈長(cm)	107	95	12	106	94	12	98	86	12
	穂長(cm)	8.7	8.5	0.2	7.4	7.6	△0.2	7.3	7.1	0.2
	穂数(本/㎡)	514	511	3	803	705	98	589	593	△4
子実重(kg/10a)		490	503	△13	440	403	37	405	471	△66
リットル重(g)		775	749	26	787	791	△4	752	733	19
千粒重(g)		43.6	45.1	△1.5	36.2	38.9	△2.7	36.9	39.3	△2.4
品質(等級)		1	1	—	1	1	—	1	2上	—
子実重平年対比(%)		97	100	△3	109	100	9	86	100	△14

注) 平年値は前7か年中、昭和63年、平成2年(各収穫年度)を除く5か年平均。

### 2. 春播小麦 平成7年度の作況:不良

事由:播種は平年より1～3日遅い5月1日に行った。播種後の降雨とその後の好天により出芽は早まり、平年より出芽までの期間は短縮された。5月下旬の多雨により、その後の乾燥にもかかわらず、茎数は確保され、草丈は高かった。6月下旬から7月第1半旬までの不順な天候により生育はやや停滞し、出穂期はほぼ平年並となり、特に「ハルユタカ」で赤かび病が多発した。その後天候は回復し、特に7月第6半旬は気温がかなり高く、登熟を進めたが、8月に入って一転して不順な天候となり、「ハルユタカ」は平年並の成熟期であったが、「春のあけぼの」は成熟期が遅れた。

登熟中盤の高温と後半の多雨・寡照により登熟条件が劣り、千粒重は平年より5.3～6.9g、リットル重は同15～38g低かった。このため、子実重は平年対比80～90%とかなり劣り、穂発芽が発生したため品質も劣った。なお、品種別では「ハルユタカ」の被害が大きかった。

以上により、平成7年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次		ハルユタカ			春のあけぼの		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期(月.日)		5.1	4.30	1	5.1	4.30	3
出芽期(月.日)		5.11	5.15	△4	5.11	5.13	△2
出穂期(月.日)		6.28	6.27	1	6.27	6.27	0
成熟期(月.日)		8.6	8.6	0	8.12	8.1	2
6月20日 (参考)	草丈(cm)	62	58	4	65	60	5
	茎数(本/㎡)	792	743	49	794	644	150
成熟期に おける	稈長(cm)	88	81	7	89	80	9
	穂長(cm)	8.5	8.3	0.2	8.5	8.1	0.4
	穂数(本/㎡)	467	471	△4	438	454	△16
子実重(kg/10a)		265	333	△68	290	323	△33
リットル重(g)		733	771	△38	773	788	△15
千粒重(g)		32.7	39.6	△6.9	35.8	41.8	△5.3
品質(等級)		等外	2	—	等外	2	—
子実重平年対比(%)		80	100	△20	90	100	△10

注)「ハルユタカ」の平年値は前7か年中、平成5年、6年を除く5か年平均。

「春のあけぼの」の平年値は前6か年中、平成5年を除く5か年平均。

ただし、6月20日の平年値は「ハルユタカ」は平成3年、4年の2か年平均、

「春のあけぼの」は平成6年の値で、いずれも参考値である。

### 3. 大豆 平成7年度の作況: 平年並

事由: 播種は5月19日で、平年より1日早かった。播種後の適度な降雨により出芽は順調であった。ただし、タネバエの被害により芯止まりが発生したため、補植を行ったが活着が悪く、スタンド確保にやや問題があった。出芽後、6月から7月にかけて降水量は平年より多いものの気温はほぼ平年並に推移したため「ユウヒメ」、「ユウヅル」両品種とも生育は平年並で、開花期もほぼ平年並であった。8月上旬以降、気温は平年より低く推移した。このため、成熟期の主茎長は両品種とも平年を下回り、主茎節数は「ユウヒメ」ではほぼ平年並、「ユウヅル」では平年より約1節少なかった。分枝数は「ユウヒメ」では平年よりやや少なく、「ユウヅル」はほぼ平年並であった。成熟期は「ユウヒメ」では平年より5日早く、「ユウヅル」は平年並であった。収量構成要素のうち、着莢数は両品種とも平年より14～15%少なかった。一莢内粒数は「ユウヒメ」では平年をやや下回り、「ユウヅル」は平年並であった。百粒重は「ユウヒメ」が平年並、「ユウヅル」は平年より重かった。この結果、子実重は「ユウヒメ」が339kg/10aで平年対比は103%、「ユウヅル」は343kg/10a、104%であった。なお、本年は脱穀調査時の子実水分が14～17%と例年より高かった。品質(検査等級)は粒揃い不良(両品種)、扁平粒(ユウヅル)により平年より劣った。

以上により、平成7年度の作況は平年並である。

品種名 項目/年次		ユウヒメ			ユウヅル			ツルムスメ(参考)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期(月.日)		5.19	5.20	△1	5.19	5.20	△1	5.19	5.20	△1
出芽期(月.日)		6.4	6.8	△8	6.3	6.7	△4	6.4	6.6	△2
開花期(月.日)		7.22	7.23	△1	7.3	7.3	0	7.21	7.19	2
成熟期(月.日)		9.3	10.5	△5	10.16	10.16	0	9.28	10.4	△6
主茎長 (cm)	6月20日	11.4	8.5	2.9	9.6	7.3	2.3	9.9	9.7	0.2
	7月20日	32.6	33.2	△0.6	29.4	28.5	0.9	31.9	37.8	△5.9
	8月20日	49.4	53.2	△3.8	65.5	65.9	△0.4	44.2	47.3	△3.1
	9月20日	48.0	53.4	△5.4	66.4	67.4	△1.0	42.6	46.5	△3.9
	成熟期	49.8	53.8	△4.4	64.0	66.9	△2.9	42.9	46.0	△3.1
主茎節数 (節)	6月20日	3.6	2.7	0.9	3.1	2.7	0.4	3.3	3.2	0.1
	7月20日	8.7	8.5	0.2	8.6	8.5	0.1	9.3	7.9	1.4
	8月20日	12.3	12.4	△0.1	14.4	15.2	△0.8	12.1	12.0	0.1
	9月20日	12.7	12.8	△0.1	14.9	15.5	△0.6	12.4	11.6	0.8
	成熟期	12.9	12.7	0.2	14.4	15.6	△1.2	12.6	11.7	△0.9
分枝数 (本/株)	7月20日	4.8	3.8	1.0	2.7	2.1	0.6	3.1	3.4	△0.3
	8月20日	6.8	6.5	0.3	4.9	5.0	△0.1	4.9	4.3	0.6
	9月20日	6.3	6.3	0.0	5.6	5.6	0.0	4.6	4.3	0.3
	成熟期	6.3	7.1	△0.8	6.1	5.7	0.4	5.3	4.8	△0.5
着莢数 (莢/株)	9月20日	51.8	63.3	△11.5	57.3	65.0	△7.7	48.3	51.7	△3.4
	成熟期	54.5	63.4	△8.9	59.0	69.3	△10.3	49.1	53.9	△4.8
一莢内粒数(粒)		1.74	1.84	△0.10	1.80	1.79	0.01	1.72	1.88	△0.16
子実重(kg/10a)		339	328	11	343	331	12	314	312	2
百粒重(g)		44.0	43.5	0.5	44.2	42.5	1.7	48.2	44.8	3.4
屑粒率(%)		0.0	0.4	△0.4	0.2	0.3	△0.1	0.1	0.4	△0.3
品質(等級)		3中	2下	—	特加	3上	—	3上	2下	—
子実重平年対比(%)		103	100	3	104	100	4	100	100	0

注1) 平年値は前7か年中、平成元年、6年を除く5か年平均。「ツルムスメ」の平年値は前5か年の平均。ただし、6月の主茎長、主茎節数は平成4年欠測、7月の主茎長、主茎節数、分枝数は平成5年欠測、成熟期の主茎長、主茎節数、分枝数、稔実莢数は平成6年欠測。

注2) 本年の子実重、百粒重は水分15%換算値である。

注3) 品質等級の特加は特定加工用を示す。

#### 4. 小豆 平成7年度の作況:良

事由:播種は平年より2日早い5月19日に行った。播種後、適度な土壌水分があり、気温は平年並～やや低めに経過し、出芽期は平年並の6月9日であった。6月下旬は気温が低かったものの、7月は気温が高めに経過した。このため、開花までの生育は順調で、開花期の生育量は平年を上回った。開花期は平年並であった。その後、8月は気温が低く、多雨に経過し、圃場は過湿状態が続いた。このため、登熟期間の生育は徒長気味であったが、主茎節数及び分枝数は引き続き平年を上回った。成熟期は平年より2日早い9月8日であった。一莢内粒数及び100粒重は平年をやや下回ったが、総節数が平年より多く、着莢数は平年を大きく上回った。このため、子実重は269kg/10aで、平年対比113%であった。品質は平年に比べ優った。以上により、平成7年度の作況は良である。

品種名 項目/年次		エリモシヨウズ		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		5.19	5.21	△2
出芽期(月.日)		6.9	6.8	1
開花期(月.日)		7.26	7.26	0
成熟期(月.日)		9.8	9.1	△2
主茎長 (cm)	6月20日	5.2	4	1.2
	7月20日	14.9	12.8	2.1
	8月20日	43.1	32.3	10.8
	成熟期	40.9	39.2	1.7
主茎節数 (節)	6月20日	1.9	1.5	0.4
	7月20日	7.4	6.3	1.1
	8月20日	13.1	11	2.1
	成熟期	12.1	10.5	1.6
分枝数 (本/株)	7月20日	2.2	1.6	0.6
	8月20日	4.5	2.6	1.9
	成熟期	4.2	2.4	1.8
着莢数 (莢/株)	8月20日	31.5	28.9	2.6
	成熟期	49.1	38.7	10.4
一莢内粒数(粒)		6.39	6.55	△0.16
子実重(kg/10a)		269	238	31
百粒重(g)		12.0	12.6	△0.6
屑粒率(%)		1.0	1.6	△0.6
品質(等級)		2中	3上	—
子実重平年対比(%)		113	100	13

注) 平年値は前7か年中、平成3年、6年を除く5か年平均。

ただし、成熟期の平年値は未成熟に終わった平成元年も除く4か年平均。

5. 菜豆 平成7年度の作況:不良

事由:5月中下旬が降雨がちで播種作業が遅れ、播種は平年より15日遅い6月7日に行った。播種後は降水不足により出芽が不揃いとなり、7月上旬の降雨で7月5日に出芽期を迎えたが、平年より24日遅れと著しく遅延した。出芽期後は気温が上昇し生殖生長への移行が早まり、開花期は平年より14日遅い8月1日となり生育の遅れはやや回復した。その後、多雨による湿害で根部の活性が低下し、また、低温・日照不足の影響もあり成熟期は平年より16日遅い9月21日となった。開花期において生育量が十分に回復せず、その後の低温・多雨・日照不足のため、成熟期における生育量は平年より劣った。すなわち、主茎長と主茎節数は平年をやや下回り、分枝数は平年を大きく下回った。このため着莢数は平年の半分以下とかなり少なかった。また、開花期直後の低温により一莢内粒数は平年を大きく下回った。また、百粒重も平年を大きく下回ったことから、子実重は平年の約1/4の57kg/10aと著しく少なかった。

以上により、平成7年度の作況は不良である。

品種名 項目/年次		改良早生大福		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		6.7	5.23	15
出芽期(月.日)		7.5	6.11	24
開花期(月.日)		8.1	7.18	14
成熟期(月.日)		9.21	9.5	16
主茎長 (cm)	6月20日	—	14.9	—
	7月20日	57	204	△147
	8月20日	240	269	△29
	成熟期	235	268	△34
主茎節数 (節)	7月20日	8.2	15.1	△6.9
	8月20日	23.0	20.6	2.4
	成熟期	18.9	21.0	△2.1
分枝数 (本/株)	7月20日	0.0	3.3	△3.3
	8月20日	1.4	3.1	△1.7
	成熟期	0.9	2.8	△1.9
着莢数 (莢/株)	8月20日	14.4	33.4	△19.0
	成熟期	15.7	33.5	△17.8
一莢内粒数(粒)		2.75	4.09	△1.34
子実重(kg/10a)		57	236	△179
百粒重(g)		56.0	65.0	△9.0
屑粒率(%)		2.0	4.6	△2.6
品質(等級)		2	2	—
子実重平年対比(%)		24	100	△76

注) 平年値は前7か年中、平成4年、6年を除く5か年平均。

6. ばれいしょ 平成7年度の作況：平年並

事由：植付けは圃場条件の関係で平年より早く4月25日に行なった。萌芽は植付けが早かったため平年よりかなり早く5月中旬よりみられた。その後の生育は気温が平年に比べやや低めに経過したため、茎長は平年並を示したが、茎数はやや少なかった。開花期は6月下旬からみられ、平年並であった。その後の生育は平年並を示したため、地上部の生育は順調に繁茂した。しかし、7月下旬が高温に経過したため、生育は急速に進み、「男爵薯」は7月下旬に黄変が始まり8月中旬に枯凋期に達し、「農林1号」は9月上旬に枯凋期に達した。

塊茎の肥大は生育後半の気象条件が平年並に推移したため順調に進み、株当たり上いも数、一個重およびでん粉価はほぼ平年並を示した。また、上いも収量は「男爵薯」は平年を若干上回ったが、「農林1号」は平年並であった。

以上により、平成7年度の作況は平年並である。

品種名 項目/年次	男爵薯			農林1号			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期(月.日)	4.25	5.6	△11	4.25	5.6	△11	
萌芽期(月.日)	5.19	5.28	△9	5.21	5.29	△8	
開花期(月.日)	6.27	6.29	△2	6.27	6.29	△2	
枯凋期(月.日)	8.18	8.23	△5	9.5	9.12	△7	
茎長 (cm)	6月20日	32	31	1	33	32	1
	7月20日	40	39	1	56	52	4
	8月20日	—	—	—	58	53	5
茎数 (本/株)	6月20日	4.1	5.3	△1.2	3.7	5.3	△1.6
	7月20日	4.2	5.0	△0.8	3.5	5.3	△1.8
	8月20日	—	—	—	3.9	5.3	△1.4
上いも数(個/株)	10.0	10.2	△0.2	9.0	10.8	△1.8	
上いも平均一個重(g)	84	79	5	109	96	13	
上いも重(kg/10a)	3,258	3,056	202	4,378	4,226	152	
中以上いも重(kg/10a)	2,639	2,485	154	3,765	3,663	102	
でん粉価(%)	16.8	15.2	1.6	16.3	16.2	0.1	
でん粉重(kg/10a)	503	432	71	670	636	34	
上いも重平年対比(%)	107	100	7	104	100	4	
中以上いも重平年対比(%)	106	100	6	104	100	4	
でん粉重平年対比(%)	116	100	16	105	100	5	

注) 平年値は前7か年中、平成4年、6年を除く5か年平均。

上いも数および平均一個重は栽植密度変更(平成4年)のため参考値。

「上いも」は20g以上、「中以上いも」は60g以上の塊茎である。

7. てんさい 平成7年度の作況:不良

事由:播種は平年より1日遅い4月4日、発芽は良好で4月12日に発芽期に達した。移植は平年と同日の5月10日に行なった。移植後、圃場が適湿であったため活着は良好であった。5月下旬から6月上旬、6月下旬から7月上旬前半の気温は平年並みから平年より低く多雨に経過したため、生育は抑制され草丈は平年をやや下回って推移したが、その後7月上旬後半～下旬にかけて気温は平年並みから平年より高く経過したため、生育は回復し草丈は平年を上回った。  
 しかし、8月上旬から9月中旬まで低温・多雨・寡照の不順な天候が続いたため、下位葉の黄化が促進されやや湿害の様相を呈し根部の肥大が抑制された。このため、8月の草丈は平年を上回ったが、葉数は平年並みで根周は平年をやや下回り、9月では葉数および根周が平年をさらに下回った。  
 収穫は平年より5日早い10月9日に行なった。10a当たり根重は7.09t で平年対比90%、根中糖分は16.26%で同97%、糖量は1153kgで同88%といずれも平年を下回った。  
 以上により、平成7年度の作況は不良である。

品種名(栽培法) 項目/年次		モノホマレ(移植)		
		本年	平年	比較
播種期(月.日)		4.4	4.3	1
移植期(月.日)		5.1	5.1	0
収穫期(月.日)		10.9	10.14	△5
草丈 (cm)	5月20日	6.7	4.4	2.3
	6月20日	26.8	28.7	△1.9
	7月20日	45.8	49.4	△3.6
	8月20日	57.2	53.1	4.1
	9月20日	59.9	52.7	7.2
	収穫期	57.9	50.0	7.9
葉数 (枚)	5月20日	3.1	2.8	0.3
	6月20日	11.1	10.6	0.5
	7月20日	20.4	19.1	1.3
	8月20日	23.8	23.7	0.1
	9月20日	25.2	29.3	△4.1
	収穫期	24.9	29.3	△4.4
根周 (cm)	7月20日	20.5	21.4	△0.9
	8月20日	29.2	30.2	△1.0
	9月20日	33.2	34.8	△1.6
	収穫期	33.2	36.0	△2.8
茎葉重(t/10a)		5.83	4.14	△0.31
根重(t/10a)		7.09	7.89	△0.80
根中糖分(%)		16.26	16.69	△0.43
糖量(t/10a)		1,153	1,316	△163
根重平年対比(%)		90	100	△10
根中糖分平年対比(%)		97	100	△3
糖量平年対比(%)		88	100	△12

注) 平年値は前7か年中、平成3年、4年を除く5か年平均。  
 ただし、草丈、葉数、根周の平年値は欠測の平成5年も除く4か年平均。